

日々に新たに



消防大学校長 高尾 和彦

消防大学は、前身の消防講習所の時代を含め、65年にわたり全国の消防職・団員の幹部教育を担い、昭和34年に消防大学校となってからの卒業生は5万人を超えました。学校の所在する多摩地域は、幕末の新選組にゆかりのある地域で近くには近藤勇の生家の跡や墓もあります。この「新選組」の三つの字になぞらえて、本校の特長や使命について思うところを述べてみたいと思います。

まず「新」ですが中国の古典「四書五経」の「大学」に「苟^{まこと}に日に新たに、日に新たに、又日に新たに」という節があります。自然環境や社会経済の変化とともに、火災や事故、災害の有り様も変わっていきます。本校も毎年、教育訓練計画や授業内容を見直しており、平成25年度においては、昨年5月に発生した福山市でのホテル火災を踏まえて違反是正特別講習を新設するとともに、実火災体験型訓練施設を整備して実技訓練（ホットトレーニング）を開始しました。立ち木を斧で切り倒した直後の切り口のみずみずしさから生まれた言葉が「新」だそうです。消防大学校も常にフレッシュであることが求められています。

次に「選」ですが、本校への入校者は毎年1,600人程度で、全国の消防職員数の1パーセントです。極力、定員増に努めてきておりますが施設の収容力や日程などによる限界もあります。そのような中で学生は、まず所属の消防本部で選抜され、各県での絞り込みそして当校の審査を経て入校が認められます。消防大学校は、政府が設置運営する唯一の消防の研修機関です。学生の皆さんには選ばれて消防の「最高学府」で学ぶことの重さをあらためて感じていただきたいと思ひますし、我々スタッフもその名に恥じないよう職責を自覚し教育水準の向上に取り組んでいきます。

最後は「組」です。消防は、部隊を基礎単位とする活動組織であり、消防活動を効率的に行い、隊員の安全を確保するためには迅速・的確な指揮命令と隊員間・部隊間のチームワークが欠かせません。消防大学校は、組織を真に組織たらしめる幹部や上級幹部の教育を使命としています。従ってその教育内容も「自ら動く」ことよりも「人を動かす」ことに重点が置かれています。本校の理想は、「将たる消防人」として必要な識見と人格を身につける道場となることではないでしょうか。

また、見知らぬ仲間が寝食を共にし、勉強・訓練に励むことにより生まれる友情や連帯ももう一つの「組」と言えるでしょう。消防本部が管轄区域を超え共同して活動する機会は、今後ますます多くなると思われます。そんな時、消防大学校の同窓生という絆が大きな力になるはずです。

新選組の歴史的評価はともかく、幕末期に草莽の志を持った青年が集まり一つの目的に命をかけたこと、そしてその情熱が今なお、多くの日本人の心をとらえているのは事実です。ここ消防大学校においても全国から集まった消防職・団員の情熱をしっかりと受け止め、その使命を果たしていきます。